

グリーングリーン

新緑が眩しい季節がやってきました。そこで、今回は“緑”をテーマにした本を集めてみました。森や植木、様々な植物に心を馳せてみてはいかがでしょうか。



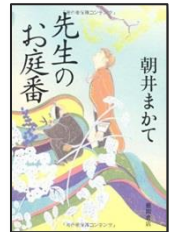
『コケを見に行こう!』
佐古 文男著
技術評論社
475サ
篠崎ほか所蔵

コケといっても千差万別。日本だけでも約1800種のコケがあるそうです。本書は等々力渓谷や鎌倉、富士山などのコケ観察スポットと、そこに生育しているコケ情報を案内しています。たまには目線を下げて、観光してみてもいいかもしれません。素敵なコケに出会えるかもしれません。



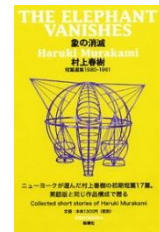
『木曾谷の証人』
(『惨』所収)
伊東 潤著
講談社
Fイ
篠崎ほか所蔵

時は戦国時代。農耕に適した土地が少なく、林業が産業の要である信州木曾谷。領主の弟で、木材を管理する杣頭を務める木曾義豊は家族と平和に暮らしていた。強大な織田軍がこの地に迫った時、木曾谷の自然と民を守るため義豊はある決断をする——。その覚悟に感服しました。



『先生のお庭番』
朝井 まかて著
徳間書店
Fア
篠崎ほか所蔵

長崎の植木商に奉公する熊吉は、出島での仕事を命じられる。それは、シーボルトの下で薬草園を一から作るという途方もない仕事だった。創意工夫と熱意により、少しずつシーボルトの信頼を得ていく熊吉。その一途に働く姿が好ましくて応援したくなる。



『緑色の獣』
(『象の消滅』所収)
村上 春樹著
新潮社
Fム
篠崎ほか所蔵

読み終わった後、あまりのつらさと切なさに嗚咽し、20分以上立ち上がれませんでした。知人に読ませたところ「え〜どこがあ？」というまさかの反応。たぶん誰の目線で読むのかで全く違う気持ちになるのだと思います。ちなみに私は緑色の獣です。



『世界の巨樹と絶景の森』
濱野 周泰監修
学研パブリッシング
653セ
篠崎ほか所蔵

テレビCMでおなじみのオアフ島のアメリカネム、マダガスカルのパオバブなど、世界の巨樹や高齢樹を紹介した写真集。眺めているだけで木々の生命力に圧倒されるが、中でも樹齢2200年、樹高84mというアメリカの「シャーマン将軍の木」の威厳に満ちた佇まいが素晴らしい。



『神去なあなあ 日常』
三浦 しをん著
徳間書店
BFミ
篠崎ほか所蔵

神去村……それは三重県の山奥にある林業が盛んな村。そこに高校卒業と同時に放り込まれた都会育ちの主人公の運命は？ 個性的な村人たちと繰り広げる騒動も愉快ですが、それだけでなく日本人の山に対する畏敬の念を思い出させる一冊です。



『森ではたらく!』
古川 大輔ほか編著
学芸出版社
651モ
篠崎ほか所蔵

本書では、様々な形で森と関わる仕事をする人々を紹介している。自分の仕事について話す彼らは、苦勞を語る時も楽しそうだ。先人の残した自然を、自らの仕事で守り育て、次の世代へ手渡していく。森で働く人々は、森を未来へ繋ぐ人々であると思った。



『植物はヒトを操る』
いとう せいこう著
竹下 大学著
毎日新聞社
470イ
篠崎ほか所蔵

私たち人間は、動くこともしゃべることもできない植物たちに利用されている！ 世界的な育種家の著者は言います。どういことでしょうか。植物たちを擬人化したりして、専門的な知識がなくても、面白おかしく人と自然のことを考えさせてくれる本です。